JILA

ランドスケープ作品選集

JILA selected works of landscape architecture

ランドスケープ研究 Vol.81 増刊 作品選集

2018

NO.14

公益社団法人
日本造園学会

ISSN 1882-4463

ISSN 1882-4463

ランドスケープ作品選集
2018 No.14

運営・コミュニケーション
かなたけの里公園におけるパークマネジメント
けいはんな記念公園における参加型環境整備事例
七ヶ浜町の復興まちづくり事業における景観再生計画
南池袋公園
天王寺公園エントランスエリア “てんしば”
水上公園
福徳神社・福徳の森
虎渓用水広場
石巻・川の上プロジェクト 百俵館 1期工事
三星小中学校通学路整備工程
済衆館病院　西館ランドスケープ
公益財団法人 浅香山病院（一般科）

都市環境
品川セントラルガーデン
台湾宜蘭県冬山郷郷政中心及び
周辺区域環境整備事業
狭山市駅西口地区市街地再開発事業
「スカイテラス」
品川シーズンテラス ノース&サウスガーデン
グランモール公園再整備
大手町フィナンシャルシティ（二次街区，三次街区）
ランドスケープ計画
シンボルロード「大分いこいの道」の計画・設計
横浜市庁舎緑化再整備　～街のリノベーション～
新彊博楽文化路ロータリー

エコロジー
女神の森セントラルガーデン
ケラ池（スケートリンク）
安川電機「YASKAWAの森」
気仙沼清凉院 樹林墓苑
冬山河森林公園　－生態緑舟－
宇部市ときわ動物園
「アジアの森林、アフリカの丘陵・マダガスカル」
宇部市ときわ動物園
「中南米の水辺、山口・宇部の自然」

オフィス・商業空間
東京ガーデンテラス紀尾井町
二子玉川ライズ二期事業 ランドスケープ計画
フォーシーズンズホテル京都
TRI-SEVEN ROPPONGIと天祖神社
Kobo パーク宮城
星野リゾート 界 加賀 庭園改修工事
トキハわさだタウン フェスタ広場改修
コープ共済プラザ グリーンブラインド
新ダイビル　堂島の杜

庭園
風景式庭園内洗心倶楽部
富山城址公園　日本庭園・露地
蓮華院誕生寺　本院庭園
びわこ池田記念墓地公園　近江庭園
英国大使館別荘記念公園
グッドタイムリビン嵯峨広沢 庭園
瀋陽万科　瀋陽柏翠園
国史跡田主丸大塚古墳
第32回全国都市緑化あいちフェア会場設計
夢舞台の庭

キャンパス
近畿大学東大阪キャンパス西門広場
名城大学ナゴヤドーム前キャンパス
学校法人 常翔学園 大阪工業大学 梅田キャンパス
広島修道大学キャンパス　ランドスケープ計画
神奈川工科大学キャンパス・リニューアルプロセス

生活
パークマンション三田綱町 ザ フォレスト
MAJES元麻布GARDENS
桜上水ガーデンズ　ランドスケープ計画
プラウドシティ阿佐ヶ谷／阿佐ヶ谷住宅建替え計画
ライオンズ立川錦町レジデンス
富久クロス
天津万科新梅江柏翠園1期
漢南ザ・ヒル
深圳漢京九榕台
松原団地西口公園

けいはんな記念公園における参加型環境整備事例

Participatory Improvement of the Landscape in Keihanna Commemorative Park

京都府相楽郡
Soraku-gun, Kyoto

里の景色を目指して

けいはんな記念公園（京都府立関西文化学術研究都市記念公園）は，けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市）の建設を記念して計画され，平安建都1200年記念事業の一環として整備された都市公園である。平成7年4月に開園した。平成18年6月に指定管理者制度が導入され，植彌加藤造園株式会社が共同もしくは単独で管理してきた。

けいはんな記念公園内にある回遊式日本庭園「水景園」では，エリアごとに“荒々しい自然”や“地域を象徴する里山”などが表現された。そのひとつに里の景を表現したエリアがあり，その一角に棚田を模して段々畑状に整備された場所があった。開園当初は菜の花やススキなどが植えられていたが，開園から約10年を経た平成18年には，園芸品種の花などに置き換わり花壇のようになっていた。

指定管理の開始にあたり，当時の状況と計画時のコンセプトを踏まえて公園全体の景観演出方針を立て，目標とする景観に向けて管理していくこととした。里の景を表現したエリアについては，本物の里の風景に近づけることを目指し，その一環として上記の段々畑を本物の棚田に整備しなおすことにした。また，棚田での稲作の作業風景を含めて里の営みを感じられる空間を目指し，棚田での作業を地域住民と共に行っていく仕組みづくりにも取り組んだ。

里の景色の創出における課題

棚田がある景観をつくりあげるには，大きくわけてふたつの課題があった。ひとつは環境の整備である。水景園が作庭された段階では，この場所を稲作に利用することは想定されておらず，稲作に適した土壌ではなかった。また，用排水路もなく，新たに整備しなければならなかった。

もうひとつの課題は，稲作を継続する方法である。棚田は稲作の場であり，田植えや稲刈りなどの作業を決まった時期に毎年行わなければならない。しかも，田植えなど，いくつかの段階で大きな労力を要する。毎年継続することを想定すると，公園のスタッフだけでは人手も知識も不足していた。

これに加えて，来園者が農業や自然環境，地域文化について，体験しながら学ぶ機会を提供できるよう検討していた。農作業のうちイベントとして実施できるものは，田植えや稲刈りなど，比較的簡単で人手が必要な作業である。これはふたつ目の課題の解決策になる可能性があったが，一方で，イベントを円滑に進めるために，畔の管理や害虫対策など，事前準備や日常的な管理を充分に行っておく必要があった。

地域住民の協力を得た棚田の育成管理

上記の課題を解決するためには，農業経験を持ち，日常的な農作業およびイベントの運営の両方への協力者が必要であった。指定管理開始初年度にはボランティアを募集して，近隣地域在住の協力者を多く得た。この中でも特に地域の農業に詳しい数名に，準備作業や参加者への説明なども含めて，中心的な指導者として協力してもらうこととした。

ボランティアの募集と並行して棚田の整備を開始した。稲作に適した土の搬入と水路の整備は平成19年の春に完了し，稲作に必要な最低限の環境が整った。

平成19年度には田植えや稲刈りを個別のイベントとして実施した。しかし，個別イベントでは部分的な体験にとどまり，農業や地域文化への十分な理解にはいたらない。このような観点から，一年間の稲作作業を一貫して体験することが望ましいと考え，平成20年度に年間会員制の「つちのこ隊」を立ち上げた。つちのこ隊では次世代を担うこども達が農業を体験することを重要視し，基本的に親子で参加することを条件とした。

これ以降，毎年つちのこ隊を実施し，ボランティアや参加者からの意見を取り入れながら，棚田の景観およびイベント内容を随時改善してきた。例えば，漏水防止のためにシートや波板を利用していたものを，平成25年度には畦の上が馴染んできたため“畦塗り”と呼ばれる方法に変えたことや，除草作業などの日常の手入れ作業についても，活動に組み込んだことなどが挙げられる。

安定した棚田管理とイベント内容の発展

平成28年度にはつちのこ隊は第9期目を迎えた。8年の間に，主な実施形式はおおむね確立されてきた。例年は，4月につちのこ隊の会員募集を行った後，オリエンテーション（4月），田植え（5月），除草（6〜8月），かかし作り（8月），稲刈り・はざ掛け（10月），もちつき（12月），さよなら会（2月）と進めている。稲を栽培するだけではなく，実際に餅として食べるまでの体験は，多くの参加者にとっては初めての体験である。このように，つちのこ隊の活動は棚田や稲作について学び，親子ともに体験できる貴重な機会として好評を得ている。

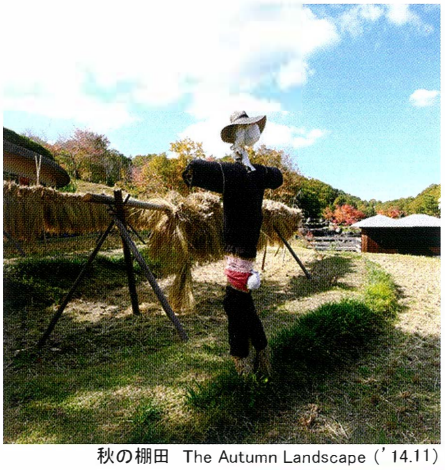
最近では，有機農法や昔ながらの農具の実演などを取り入れることで，農業体験をより豊かなものにできるよう取り組んできた。現代の農作業では，多くの過程において機械が導入されており，各作業が自動化されていることも多い。つちのこ隊では，稲を刈り取った後にははざ掛けして天日干しにし，乾いた稲を足踏み式の脱穀機で脱穀する体験を取り入れた。また，杵を手で突いて精米したり，残ったワラを打ち，縄を綯う体験も行ってきた。これらの体験は稲を刈り取った後にも多くの過程があり，ワラなどの副産物も残さず利用していたことを学ぶ場となった。また，棚田の脇でボランティアやつちのこ隊が古い民具を使用している姿は，それ自体が里の風景の演出になっている。

里に賑わいを与える棚田

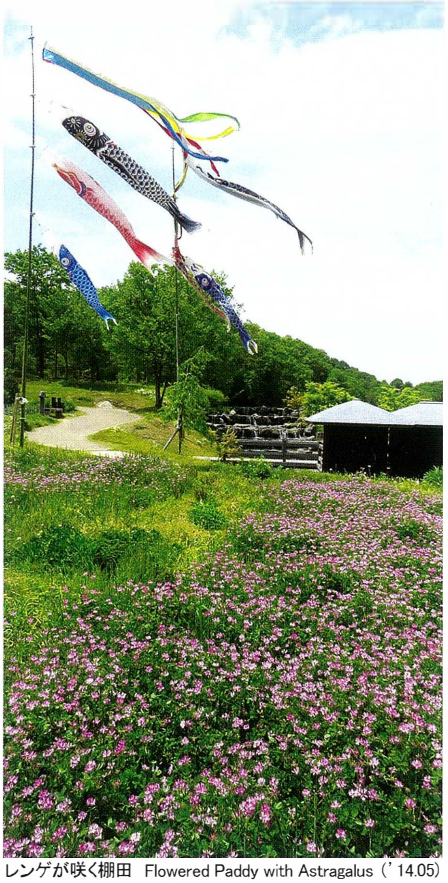
棚田の四季の移ろいは自然の草木の移ろいとは異なる趣がある。稲の栽培時期以外でも，春先にはレンゲが咲き，秋には稲刈りの名残りを感じられる。これらは，人が自然に手を入れる営みがあってこそ生まれるものであり，日本の里の豊かな環境あるいは原風景を多くの人に感じさせる光景である。

また，棚田はビオトープとしての役割も果たしており，カエルやバッタ，トンボなど，水田環境を好む生き物がみられるようになった。こども達がこのような生き物を追いかける姿も里の風景のひとつといえる。棚田があることで生まれる様々な風景が，里を表現したエリアにいきいきとした賑わいを与えている。

整備前 Before （’05.10）



秋の棚田 The Autumn Landscape （’14.11）



レンゲが咲く棚田 Flowered Paddy with Astragalus （’14.05）

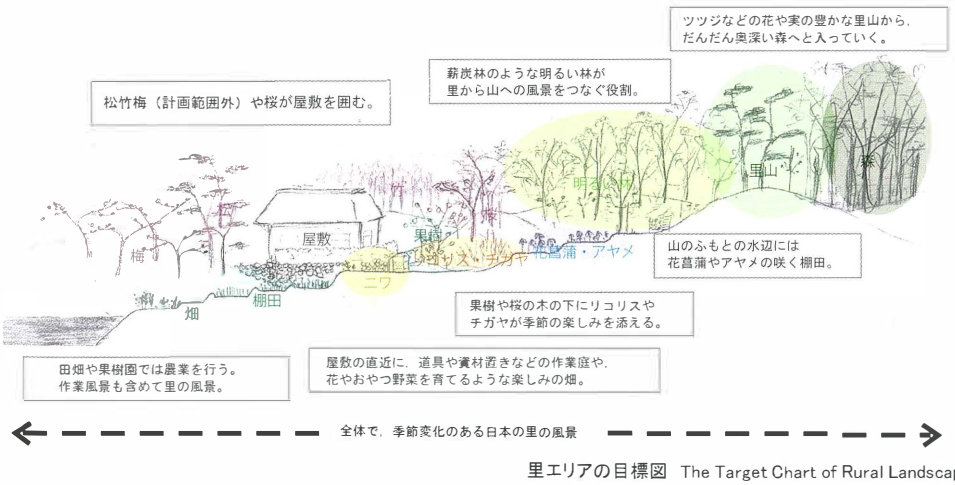
舟尾　俊範　Toshinori Funao　稲本　雄太　Yuta Inamoto　山口　隆史　Takashi Yamaguchi　野村　はな　Hana Nomura
髙橋　真弓　Mayumi Takahashi　武藤　智彦　Tomohiko Muto
吉田　芙美代　Fumiyo Yoshida　藤永　展　Hiraku Fujinaga
植彌加藤造園株式会社
Ueyakato Landscape Co., Ltd.
株式会社ヘッズ
HEADS Co., Ltd.

稲が実った棚田の風景　The Landscape with Ripe Rice ('14.10)

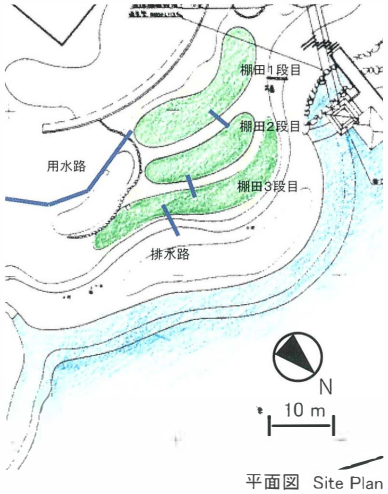
畔塗作業　Coating Dike with Mud ('13.05)

田植え作業　Rice Planting ('09.05)

ビオトープとしても機能 Paddy is Biotope ('12.05)



里エリアの目標図　The Target Chart of Rural Landscape



平面図　Site Plan

A stroll Japanese garden called "Suikei-en" located inside Keihanna Commemorative Park has "a terraced paddy field" which is a signature Japanese countryside scenery. This area was a multi-leveled field inspired by a rice terrace at the opening. But ten years later, the field had turned into Western-style flowerbeds. Restructure of this area was conducted to have a workable authentic rice terrace which was the original concept of the garden. The earmarks of this project were the development of a management system which is supported by the local farmers' wisdom and techniques and also a program where local children can participate in its upkeep while experiencing the traditional farming activities. The operation of the family program called "Tsuchinoko-tai" has been carried out by the volunteer and park staff. With nine years after its launch, it is a well-established year-around program. The view of the children and volunteers in action at the rice terrace has become a significant part of the rural landscape.

作品評（板垣　範彦）

この作品は，指定管理者として既に整備された公園に対して創造的管理を行うことで，動的で生きた景観を目指した作品である。整備時点の公園は形態的な景観性に重点が置かれ，修景池や滝，岩組など様々なダイナミックな要素の一部として棚田が整備されていた。そこに様々なプログラムを実施して，かつての農業の営みを環境教育の機能に置き換え，生きた農的景観を疑似的に再現している。さらに農業経験者が指導し，一般利用者が作業を行うという多層的な市民参加の仕組みづくりが有効に機能して，継続的な運営につながっている。

かなたけの里公園のパークマネジメント

所 在 地：福岡県福岡市西区大字金武 1367
事 業 主：福岡市
計画・設計・監理
基本構想：松本和也・佐藤信吾・徳永哲（元所長）・木藤亮太（元所員）（エスティ環境設計研究所）
基本計画：松本和也・佐藤信吾・徳永哲（元所長）・木藤亮太（元所員）（エスティ環境設計研究所）
基本設計：武林晃司・谷山恵一（緑景九州事務所）
実施設計：栗田豊（日創建設コンサルタント）・平地隆仁（イークラフト）
計画及び設計協力：
管理運営：松本和也・豊崎修平（エスティ環境設計研究所）・渋江章子
施 工 者：
併設作品：
計画・設計期間：
2007 年 7 月～ 2020 年 3 月
施工期間：
規　　模：12.7ha
キーワード：
パークマネジメント，地域連携，地域活性化，農体験，環境保全
立地条件：都市近郊の農村

けいはんな記念公園における参加型環境整備事例

所 在 地：京都府相楽郡精華町精華台六丁目 1 番地
事 業 主：京都府
計画・設計・監理
基本構想：吉田芙美代・山口隆史（植彌加藤造園），野村はな（ヘッズ）
基本計画：吉田芙美代（植彌加藤造園），野村はな（ヘッズ）
基本設計：同上
実施設計：同上
施工監理：植彌加藤造園
計画及び設計協力：
施 工 者：高橋真弓・吉田芙美代・稲本雄太・武藤智彦（植彌加藤造園），野村はな（ヘッズ）
併設作品：
計画・設計期間：
平成 18 年 6 月～平成 18 年 11 月
施工期間：平成 19 年 1 月～平成 20 年 3 月
規　　模：約 200 ㎡
キーワード：
棚田，住民参加，里，農業体験，ビオトープ
立地条件：相楽郡都市計画精華台地区文教ゾーン

七ヶ浜町の復興まちづくり事業における景観再生計画

所 在 地：宮城県七ヶ浜町菖蒲田浜地内（※ 1：菖蒲田浜地区都市公園事業，※ 2：笹山地区防災集団移転事業とも）
事 業 主：七ヶ浜町（※ 1，※ 2 とも）
計画・設計・監理（※ 1，※ 2 とも）
基本計画：高橋宏樹・山根喜明・宮城俊作（設計組織プレイスメディア）
基本設計：高橋宏樹・山根喜明・宮城俊作・小林祐太（設計組織プレイスメディア）
実施設計：高橋宏樹・山根喜明・宮城俊作・小林祐太・女鹿祐介（設計組織プレイスメディア）
施工監理：藤島康雄（玉野総合コンサルタント）
計画及び設計協力：
現況測量及び実施設計支援 / 佐野コンサルタンツ
施 工 者：※ 1　波多野寛之（グリーン産業），葛西雄也（丸勘建設），千葉友也（千葉園芸）
※ 2　飯島正人（佐藤工業）
計画・設計期間：
2012 年 4 月～ 2015 年 3 月
施工期間：2015 年 10 月～順次開園（※ 1），2013 年 2 月～ 2015 年 3 月（※ 2）
規　　模：7.9ha（※ 1），10.6ha（※ 2）
キーワード：
東日本大震災，復興まちづくり事業，景観再生，津波防災緑地，腹付け盛土
立地条件：津波防災緑地（※ 1），防災集団移転促進事業地内造成地（※ 2）

南池袋公園

所 在 地：東京都豊島区南池袋二丁目 21 番 1 号
事 業 主：豊島区
計画・設計・監理
基本構想：平賀達也・小林亮太（ランドスケープ・プラス）
基本計画：同上
基本設計：同上
実施設計：同上
施工監理：同上
計画及び設計協力：
カフェレストラン企画：船場／建築計画：久間建築設計事務所／照明計画：トミタ・ライティング・デザイン・オフィス／サイン計画：氏デザイン／構造（サクラテラス）：ディックス
運　　営：南池袋公園をよくする会
施 工 者：Ⅰ期／西武造園，Ⅱ期／かたばみ興業
併設作品：なし
計画・設計期間：
2013 年 6 月～ 2015 年 3 月
施工期間：Ⅰ期／ 2014 年 10 月～ 2015 年 3 月
Ⅱ期／ 2015 年 6 月～ 2016 年 3 月
規　　模：敷地面積 7818.50㎡，建築面積 265.27㎡
キーワード：
持続可能な公園経営，消滅可能性都市，官民協働，都市のリビング，カフェレストラン
立地条件：商業地域

天王寺公園エントランスエリア " てんしば "

所 在 地：大阪市天王寺区茶臼山町 115 番 1 の一部
事 業 主：近鉄不動産
計画・設計・監理
基本構想：中之坊健介・佐保田光章・北畠肇・白井宏佳・能美慎次郎・松本太一・後藤豊・塩見圭大・小塚康生・森良行・山本佳宏・和崎央（近鉄不動産）
基本計画：霜田亮祐・高沖哉（ヒュマス），原田哲夫・橋岡佳令・松田知也・宮島照久・鈴木雅史・西村敬（竹中工務店）
基本設計：同上
実施設計：同上
施工監理：同上
施 工 者：井上敏彰・濱野泰和（竹中工務店），田中宏宣（近鉄造園土木）
全体計画及び建築設計：
原田哲夫・橋岡佳令・松田知也・宮島照久・鈴木雅史・西村敬（竹中工務店）
サイン計画：
廣村デザイン事務所
計画・設計期間：
2014 年 1 月～ 2015 年 8 月
施工期間：2015 年 1 月～ 2015 年 10 月
規　　模：25,000㎡
キーワード：
都市公園のリニューアル，官民連携のパークマネージメント，芝生広場
立地条件：大阪市立天王寺公園，天王寺・阿倍野ターミナルに近接

水上公園

所 在 地：福岡市中央区西中洲
事 業 主：福岡市
計画・設計・監理
基本構想：徳永哲・井口直・上鵜瀬菜月（エスティ環境設計研究所）
基本計画：同上
基本設計：同上
実施設計：同上
施工監理：福岡市
計画及び設計協力：
施 工 者：牟田英樹（西鉄グリーン土木）
建築設計：松岡恭子（スピングラス・アーキテクツ），井手健一郎（リズムデザイン）
照明設計：松下美紀（松下美紀照明設計事務所）
併設作品：SHIP'S GARDEN
計画・設計期間：
2015 年 8 月 25 日～ 2015 年 12 月 15 日
施工期間：2015 年 11 月～ 2016 年 7 月（併設作品である SHIP'S GARDEN の施工期間を含む）

ランドスケープ研究　第81巻　増刊　作品選集　平成30年3月2日印刷　平成30年3月14日発行

発行所　公益社団法人 日本造園学会　〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館 6 F TEL 03-5459-0515

印刷所　㈱三友社　東京都新宿区水道町1―13 TEL 03-3513-7911